

# 京都市市民活動総合センター

## 平成23年度事業報告

平成23年度は、東日本大震災の発生や、NPO法が改正されるなど、社会におけるNPOの存在価値や役割が改めて問われる年であった。

このような社会情勢のなかで、2期目の指定管理（期間4年間）が始まったが、最初の半年間は当センターと福祉ボランティアセンター（3階）、京都市と一緒に「京都市災害ボランティアセンター」を開設し、情報収集・提供や物資の提供など、資源仲介・コーディネートとして被災地支援に関わった。さらに府・市災害ボランティアセンター協同で設立した「災害ボランティアセンター」に常時職員を派遣するなど、ボランティア活動の支援の中核拠点として情報収集・提供に努めた。

上記理由でセンターの通常事業の進捗は遅かったが、一方で市民活動をめぐる外的環境も大きく変わっている。①23年度4月から市内13か所に「いきいき活動センター（以下いきセン）」ができたこと。②24年度からのNPO法改正による一部手続き等の変更や認定NPOの所轄窓口の変更等により、相談内容等が変わっていくことが予想される。このような変化の中にあって、センターとしては、情報収集・提供事業や相談・講座事業を着実に積み重ねながら、さらに指標化しづらいコーディネートの質の部分を丁寧につないでいった。この間センターがやってきたことが、どういう風に地域や社会の志を持った方に還元できるか、想いを実現できるかなど、センターの意義を改めて考えさせられる一年であった。

以下、事業カテゴリー毎の成果と課題について記述する。各事業の成果等については、別紙をご参照ください。

### 1.情報収集・発信事業

#### ○情報収集提供事業

登録団体情報については微増傾向になっているものの、平成22年秋に開設した「団体マイページ」の利用が進み、質量ともに情報の収集・発信が充実している。

- ・ホームページアクセス数：231,972件（前年度実績：211,236件）
- ・インフォメーションサービス登録団体数：のべ972団体（前年度実績：860件）
- ・「団体マイページ」登録団体数：673団体
- ・うち「団体マイページ」利用団体数：170団体
- ・うち「団体マイページ」コンテンツ利用数：745件
- ・チラシ設置数：3,385件（前年度実績：3,683件）
- ・メールマガジン登録数：2,699件（前年度実績：2,438件）
- ・ミナデハッソ（皆で発送）♪参加団体数：のべ46団体

（注）数値はいずれも平成24年3月末日現在。

#### ○機関紙「ほっとポット」

ほっとポットは年4回から3回発行に変更し、内容を充実させる取り組みを続けている。

アソシエイト（運営協力員）が中心となり、情報発信の価値向上を課題に、チームで「質」を深める編集方針を打ち立てるなど、企画・取材・編集・制作等においてチームのマネジメント力・自治力が高まっている。

- ・機関紙「ほっとポット」27,500部（48、49、50号）
- ・機関紙「ほっとポット」配布先：150か所（平成24年3月現在）

#### ○電子掲示板のフロアへの設置

デジタルサイネージについては、昨春に開催した「まちこと2011」などで制作した団体活動紹介映像を館内で放映している。今後も多様なコンテンツ提供を通して、市民活動や地域情報を効果的に配信していきたい。

## 2.相談

#### ○ボランティア・コーディネートの「幅」の拡大

東日本震災の影響を受け、春～夏にかけては、多くのボランティア・コーディネート相談が寄せられた。府・市・社会福祉協議会・NPOと連携し、情報収集やコーディネートに努めた。

加えて、相談はその場で対応できるQ&A形式を除くなど、質を見直す取り組みに精査したため、結果として件数減になっているものの、相談者にじっくりと時間をかけて対応することができた。また、初歩・設立講座で、基本的な質問、Q&A等を盛り込んだ内容を組み立て、さらに講座後、参加者へのボランティア・コーディネート相談を開設するなど、講座と相談の連携を取りながら、より団体の力がつくような取り組みをしていった。

- ・相談件数：1,646件（昨年度実績2,703件）
- ・対応件数：37,924件（昨年度実績34,820件）

※いずれも平成23年4月～平成24年3月の数値。

#### ○相談の多様化に伴う、団体や関係機関との連携

最近の傾向として、NPO×NPO、NPO×自治会、各種地域連合からの相談を受けることが多い。内容に応じて、確実な課題解決をはかるため、他のNPO・市民活動団体や分野別センターなどにつなぐなど他組織・他機関との連携・コーディネート案件が増えている。

\*末尾の参考1を参照

## 3.エンパワー&インキュベーション

#### ○スモールオフィス入居団体のインキュベーション

スモールオフィス入居団体が自主的に、交流・情報交換に努めており、団体間のネットワークが形成されている。事務局の対応として、常時窓口やメールで事業や運営相談にあたっている。入居団体と市民、大学教員、福祉法人等とのコーディネートを行った。

また入居団体の「国際紙芝居協会」は、公募型事業に採択され、「情報発信に関するセミナー（市民活動団体向けSNS&最新IT（ツイッターやフェイスブック）を活用した情報発信方法について体験するセミナー）」を全6回開催するなど、確実にインキュベート効果が表れている。

#### 4.交流・連携・協働・研究

##### ○「情熱×プロジェクト2012」

団体の協力を得て、専門性を「見える化」し、潜在的関心層の参加を促す試みを実施した。菓子、イラストや写真など、身近なキーワードで参加者を募り、新たな担い手を発掘し、これまでNPO・市民活動団体につながる機会のなかった市民に対し、文化・芸術、子ども、社会教育などの分野・領域で活動する団体が、専門性をPRするプログラムを提供した。障がいのある子をもつ親、教育関係者、支援者、大学等からの問い合わせが複数寄せられ、当日参加や後日のコーディネートへとつながっている。

- ・プログラム参加者数：275人（プログラム提供者、スタッフは含めず）

##### コーディネート例

- ・教育現場での事業実施に向けた話が進行中<2団体>
- ・市民とNPOのマッチング＝7件
- ・具体的な仕事にやオファーに発展2件
- ・企画・実施に関するボランティア/アソシエイトの参加希望者あり

##### ○海外インターン生の受け入れ

NPO法人多文化共生センターの依頼を受け、昨年度に引き続き、韓国のハンリム大学で日本語を学ぶ大学生（2人）を受け入れ、窓口業務や事務を担ってもらった。また、センターのリーフレット韓国語版が完成した。

##### ○外部とのネットワーク連携

外部とのネットワーク連携としては、企業や大学、区役所、学生 Place を通じてNPO、市民活動団体と連携した地縁組織等、多様なコーディネートを実施した。

##### ○区役所との連携

各区の区役所における市民参加事業の実施の増加に伴い、企画や運営などへの協力要請の案件が増えており、NPOや分野別センターなどと連携し対応した。

##### コーディネート例

- ・西京区役所：自治会会長向けの市民活動講座 年3回
- ・西京区役所 自治会会長向けの広報講座 年3回
- ・伏見区役所：伏見地域活性化プロジェクト「ふしみをさかなにざっくばらん」年4回

##### ○京都地域創造基金との連携

ファンド設立事業として、京都地域創造基金との連携のもと「京都市市民活動総合センター支援基金（仮称）」が予定されていたが、震災の関係で災害ボランティア基金の優先度が高く、当事業への取り組みは遅れている。今後とも、創設するにあたっての具体的な使途や、寄付の募集方法についての課題抽出や制度設計に関する協議を行いたい。

## 参考1) コーディネートの一例

## 【東日本大震災関連】

## ▼丸亀市民生委員×京都市福祉ボランティアセンター

民生委員の災害時研修のリクエストがあった。京都市災害ボランティアセンター事務局の福祉ボランティアセンターへつないだ。

## ▼市内区社協×つなプロ、いわて GINGA-NET

区災害ボランティアセンターで、災害ボランティア啓発のパネルを作成する際、①避難所での要配慮者支援、②仮設におけるサロンの写真提供依頼があり、団体へつないだ。

## ▼NPO法人珀美会×京都市東山いきいき市民活動センターほか

東日本大震災への寄付としてチャリティカットを実施。各区において、会場費を抑えられる施設を探していたため、各いきいきセンターを紹介・コーディネートした。

## ▼NPO法人京都フィルハーモニー室内合奏団×NPO法人立ち上がるぞ！宮古市田老

震災関連助成を受ける予定の団体から、被災地公演先の照会があった。岩手県宮古市のNPOの協力を得、仮設住宅と中学校での演奏及び技術指導が実現した。

## 【分野別センター】

## ▼京都起業女性コラボ協議会×京都市景観まちづくりセンター

町家を一軒借り切って、女性の起業支援拠点を開設したい。町家修繕に関する助成金を探しており、京町家ファンドの紹介を依頼

## 【NPO×専門家】

## ▼社会保険労務士×団体

団体代表者の社会保険加入は義務である旨、年金事務所に言われたとの問合せ。まず、センターが社労士に確認し、その後コーディネートにあたった。

## ▼公認会計士補×団体

年度をまたぐ建物改築の会計処理方法に関する問合せ。センター事業の「専門家相談会」(月1回開催)ではタイミングが合わず、専門家に協力を依頼し個別対応にあたった。

## 【自治会関係】

## ▼明倫自治連合会×宮城県仙台市立生出中学校

中学校の依頼。修学旅行の折、京都の文化・伝統保護・継承に向けて住民の取り組みを知りたいとのこと。明倫学区の自治会長を紹介、4月に講話予定。

## ▼山科南団地自治会×全世界子どものラクガキ保存会

地藏盆を「子どもたちの育ちの場」として復活させたいという役員からの相談。多様な年齢の子どもが一堂に会し、共に遊べる企画となった。

## 【NPO×NPO】

## ▼ACOPA(千葉県)×NPO法人フォーラムひこばえ

スタッフ研修を京都で希望する団体から、世代間交流に取り組むNPOの照会があった。ヒアリング内容の整理をサポートし、市内団体を紹介・マッチング。研修終了

※ほか 同じコンセプトを持って活動する団体へ取組の見学・相談のコーディネートや、同じ地域で活動するNPO間のコーディネートなど。

#### 【学校×NPO】

##### ▼神奈川県寒川町立旭ヶ岡中学校×市内のNPO23 団体

修学旅行の総合学習の一環で、市内NPOから「働く」「社会参加」をキーワードに話を聞きたいというリクエストがあった。協力団体をコーディネートした。

##### ▼京都精華女子中学高等学校×NPO法人劇研

団体主催事業に関心を持つ教員へ、学内での広報協力をコーディネートした。

#### 【企業×NPO】

##### ▼プロミス株式会社お客様サービスプラザ京都×NPO法人京都みらい21

金銭教育プログラムなど地域への貢献事業実施にあたり、先行して取り組むNPOとのマッチング依頼があり、コーディネートした。社員がボランティアとして関わるほか、大学講義で社員が授業を担当するなど、NPOメンバーの協力が得られた。

※児童館や大学とつないだ事例もあり。

#### 【自治体×NPO】

##### ▼韓国水原市×大手筋地域子育てステーション ばおばおのいえ

視察時、地域とNPOが協力してまちづくりに取り組む拠点を見学したいとの依頼を受け、コーディネートにあたった。

#### 【個人×NPO／他機関】

##### ▼起業希望者 × iSB公共未来塾

教育訓練給付金で専修学校に通うグループの視察があり（引率者：NPO法人事務局長）、対応。同塾で起業家コンペの上位に進んだ。現在は更に活動継続中。

##### ▼学生×大学VC×福祉VC

コンソーシアム京都主催事業で、防災ワークショップを実施する大学生から、テーマやヒントに関する相談。対応後、佛教大学VCや防災関連講演会（福祉VC職員参加）で広報協力が実現。

##### ▼学生×NPO法人キャリアコンサルタントネットワーク

適性やキャリアプランに悩む学生が、団体の活動内容を照会。団体から適切な担当を紹介してもらい、現在指導中。

##### ▼大学生×NPO法人京都消費生活有資格者の会

授業で、関心分野・領域におけるNPO・市民活動を調査・レポートする課題が出た。消費者問題をテーマにしたいとの希望があり、つないだ。

##### ▼学生×いきもの多様性研究所

動物の保護活動ができる災害ボランティアを希望。被災動物救援活動を行っている「いきもの多様性研究所」の福島遠征に参加。